

魔法くらい使えたっていいだろうに、知らない知らない知らない知らない知らない……ってそればかりで

毛布と掛け布団の間に身体を潜り込ませて「一体それは前向きで明るいのか後ろ向きで暗くて落ち込んでいて人を泣かせて傷つけてそれでいて平気な顔で泣いて笑って怒って楽しく生きているのかどっちなわけ？」と壁に描いた大きな顔の唇が動く様子をじっと見ている

見ている

じっと

じっと見ている

「残念、認められないね」

残念、認められなかった

これはマツチ棒

いつ誰が使っても着火する優れもの

おめでとうございます

君の罪はいつだってそこにある、続いている、絶え間ない、ただ誰も君に近づきたくなかったただだよ

声がする